

第7回津別町市街地総合再生基本計画推進協議会 会議録

1. 開会

事務局：【欠席者の報告】阿部委員、増田委員、中村委員、加賀谷委員が欠席。

2. 会長挨拶

－会長より挨拶－

3. 前回会議録の確認

－委員より意見、質疑無し－

4. 【報告事項】①前回協議会からこれまでの経過について

－事務局より説明－

5. 【報告事項】②全員協議会における議論について

－事務局より説明－

委員：1月18日にスーパー運営者と協議が行われているが、本協議会で内容の報告はされないのか。1月14日までに交付申請の期日が設けられているが、交付申請されたのか。

事務局：スーパー運営者との協議については結論が出ておらず、まだ報告できるような内容になっていない。報告できるようになった段階でお示ししたい。内閣府への計画提出については期日までに提出を済ませている。

委員：交付金の交付申請にあたって、なぜ推進協議会に報告が無いのか。内容等についても協議会として把握していない。交付金の交付要綱を見ると、施設整備計画に併せて、図面・位置図を添付することとなっているが、推進協議会で議論も無いまま提出してよろしいのか。ルール上おかしいのではないか。議会の協議の中でも内閣府の交付金スケジュールの説明があり、了承されたとなれば推進協議会の役割とはなんなのか。

事務局：こちらから申請の期限を変えることはできないので、交付金を活用するために提出した。図面といっても、こちらの設計が完了していない旨を伝えており、変更も可能と考えている。事業を進めるにあたって、協議は進んだが財源がないということにはならないことから財源確保のために申請を行っている。

委員：提出した交付申請書の内容をコピーして協議会に配布いただきたい。ワークショップを実施するにあたって必要な資料である。個人的な意見であるが、推進協議会に掛かっている梯子を外された気分である。本来の進め方でいけば先に推進協議会で協議すべき。

事務局：申請書のコピーだけで読み取ることは難しいと思うが。

会 長：提出したのは配置計画程度であり、議論するような内容になっていないと思うが。

委 員：デジタル田園都市構想に合致するなどの記載もある。これらの機能を有するためにどのような施設とするか議論が必要。

会 長：今回はこの報告事項のみに時間を使うわけにはいかない。どうしてもというのであれば、後程事務局と議論していただきたい。

委 員：何を議論するのかという話だと思う。施設整備計画を提出した時点で大体決まっているという認識である。どのような買い物環境を目指すのかというような議論は協議会内で議論できなくなってしまう。

会 長：だいぶ昔に議論した話だと思っているが。

委 員：9月21日の協議会から動いていない。私が作成した資料についても配付がされていないが虚偽の発言にならないか。会議終了後に委員に配布し、後程議論するというように発言されている。

会 長：委員が仰っているのは哲学やコンセプトの話に戻そうとしていることになる。これまで忌憚ない意見を出し合ってきたと認識しているのだが。会長として各委員の意見もまとめてきたつもりである。

委 員：一人ひとりの委員の話聞いたのは一部だけでは。

委 員：補助事業なので変更は可能と言っているが、2月中に地域懇談会も含めて実施しなければ間に合わない。今回提案された配置図ではドラッグストア棟も記載されているが、議会の判断を含めて本当に出店されるのだろうか。その辺りも含めて施設整備計画を提出していると思うが、そこまで自由な変更というのは可能なのか。

事務局：内閣府に提出した計画書のコピーを配付することは構わない。読み取るために説明が必要となる。夢物語のようなことも書いている。中長期的に実現させていきたいことも書いている。デジタルシフトという言葉についてだが、全館フリーWi-Fiにするのもデジタルシフトの一つ、スーパー部分にサインージ付きの陳列棚を設置するのもデジタルシフトの一つ、こういったことを羅列しているだけである。そのため配布することは問題ないが、あくまでも補助をもらうための書類である。その書類について協議会全体で話す必要があるのかと考えるとそこまでの必要は無いと考えている。

委 員：補助金をもらうための書類ではない。まちづくりを進めるための書類である。どういったものを出したのか見せて説明してほしい。

事務局：まちづくりのための交付金をもらうための書類である。見せることは構わない。

委 員：ここに集まっているのは、津別町に良い施設を作ろうと思って集まっている。今日のワークショップのための準備はしてきたが、そこに進むためには不安がたくさんありすぎる。未知数な点がある中でワークショップを進められるのかという疑問を持っている。それを明らかにしてほしいが、明らかにならない中でも進めなければならないが、難しすぎて進められないと思っている。意見に対して町から答えが返ってきていない。答えが明らかになれば話が進んでいくが、今年最後のギリギリの状況になり、この日数での協議で皆に自慢できる施設になるかという不安を持

っている。町にはもっとオープンになって欲しいと思う。ここは意見を戦わせる場では無く、皆の英知を集めて良いものを作ろうという場だが、その方向に進んでいない。

会長：不安要素が多く、はっきりさせなければならない。良い案があっても不安要素が多くでなかなか出せない。前向きに良いものを作ろうとするための配慮や用意が必要か。

委員：2棟を分けて整備を進めることとなったが、本当にそれで良いのかと思う。買い物環境として考えると、ドラッグストアも含めて全体のレイアウトについて話し合うべき。事業申請を終え、取り下げなども難しいのは承知するが、並行して考えるべきと思っている。施設整備計画についても協議会として確認すべきと考える。

委員：棟を分けて整備する中で、ドラッグストアが本当に出店してくれるのかという不安はある。また、事業申請を行なった後に配置の変更は不可能なのだろうか。できればスーパーマーケットとドラッグストアが隣接されている方が導線として良いと思う。これらは交付申請提出後でも変更は可能だろうか。

委員：施設整備計画の提出を経て、変更可能な部分とそうでない部分が明確である必要がある。協議会としても限られた時間の中でそれを踏まえて協議しなければならない。申請にあたっては協議会に一言あっても良かったのかなと正直思う。

委員：協議会に参加し始めた当初は図面等に基づいて協議していく団体だと思っていたが、設計等に係る団体ではなくプロセスについての議論が主になっている気がしている。ドラッグストアについては進めるべきという方向性で進んでおり、2棟を分けて整備を進めていくと認識しているが、今回の図面では公共交通に係る機能が読み取れない。各機能がバラバラに進んでおり、一貫性の無い進め方で良いのだろうか。

委員：これまで話が前に進まない状況できている。委員が意見を出しても通らない状況で説明をされても納得がいかないし、何を答えて良いのかわからない。

委員：行政の進め方と地元の委員のスピードが噛み合っていない。委員それぞれ意見はあるが、その意見を出しただけで終わってしまっている。色々な議論を経て見ていきたいのだが、議論が無い中で進んでしまっているように感じられる。施設整備計画を提出しているので、それを見て意見を出したい。変更はどこができてどこができないのかわかれば意見も出やすい。また、出した意見はどこまで反映できるのか。委員同士でも意見が合わないこともあるが、それをまとめて計画を進めていくこととなる。もう少し丁寧に進めていただきたい。

委員：子どもたちのことを考えたときに、ランニングコストの議論をしなければならないし、2棟よりも1棟で整備された方がコスト面、敷地面も含めてメリットがあるように思える。アンテナショップの使い方などのソフト面や複合的な協議として、敷地内の緑地や児童館などの議論もした上で考えるべき。これまでは叩き台として提示されてきており、今回初めてのワークショップを迎える中で、事業申請を終えているのでどう反映されるのかという感じ方だと思う。

委員：施設計画の中で、交付申請はスケジュールに沿った中で進めなければならない。協

議会の中で協議すべき部分はプロセスや手続き、コミュニケーション面を含めた不安がある中だとは思いますが、積み上げられたプロセスの中で皆が思う良い施設を作ろうという気持ちを具体的にしていくという点が至らなかった。不安材料を払拭しながら前に進めるためのコンセンサスができていなかった。申し訳なく思っている。不安を無くすためにどうしたらよいかという意見を各委員に求めたい。今回は当初のテーマを変更して、それを題材としたワークショップとして開催したい。

6. 【協議事項】 事業を進めるにあたっての不安点や改善点等に係るワークショップ

※テーマは当初用意していたものと変更

ー 3班に分かれてワークショップを実施、設計者やコンサル等がファシリテーターとして各班に参加ー

ー 各班のワークショップ結果について全体に向けて発表ー

A 班：不安点は、施設整備計画を提示してほしいのと、残りのスケジュールが不足している点。解決策としては、グループラインやZoomの活用などで協議の密度や回数の増を図るなど、デジタルシフトを進める。買い物環境としてはスーパーマーケットとドラッグストアが同じ建物である方が使いやすいように思える。あとはポイントカードやクレジットカードへの対応などを求めたい。図書館については限定的でも構わないので飲食可能なスペースを設けることで、小さな子連れも使いやすい施設になるのでは。図書館に住民が参画した運営も長い視点で考えることも必要。

B 班：協議会といいながら実際に協議できたのは今回が初であった。これまでは事務局が提示した資料に対する質疑応答で時間が費やされてしまっていた。建物については、吹き抜けの部分はデザイン上良いが、2階に緑菜のにおいが上がらないのか、音が筒抜けにならないのかなどの不安点はある。また、ドラッグストアが本当に出店してくれるのか、出店できない場合この空間はどうなるのかという不安はある。もし出店されないとすれば別の使い道が見えてくれば不安は和らぐ。ドラッグストアが整備されるのかどうなのかという点については、先にはっきりしていた方が腹も括れる。

C 班：合築した方がイニシャルコストもランニングコストも安くなる。児童館も一緒の方が良いと思ったが、3階部分は目が届かず管理しにくい、建築コストも上がる。ただ児童館も併せた建築が良い。土地の景観的に病院から見るとバックヤード部分しか見えない。逆に店舗の照明などで明るすぎる部分が病院から見えるのもどうだろうかという話もあった。土地の使い方など効率よく整備できれば良い。緑地帯も子どもが遊ぶことを考えると国道とは逆側に設置できれば良い。現在のJA駐車場と土地を交換して整備がすることができれば一体的な導線となる。不安点としてはドラッグストアの動向か。

会 長：WSで皆が書いてくれた付箋を我々でよく見て、次回開催に向けた協議を行う。どのようにこの一大事業でより良い施設整備を行うか、皆の意見をどう形にしていくか検討したい。色々な形をお願いをすることもあると思う。良いものを作るために

一緒がんばっていききたい。次回開催日は内部協議次第で決定したい。

- 町 長：段々話ができるようになってきた。振り返ってみればプロポーザルで2者から提案を受けて事業者を選考した。最初は地元の建設業界が企業体を作り、建設と運営を含めて実施できないかと進めてきたが無理だという結論が出てきて、開発事業者に建設と運営をお任せする方向で進めてきた。当時はドラッグストアの出店が難しく暗礁に乗り上げていた経過がある。その中で予定していた補助事業を見送らざるを得ない状況になり、その後ドラッグストアが出店可能という結論を出してくれた。結論までに10ヶ月という長い期間を要したが、その中で色々な憶測や考え方が出てきたわけだが、少しでも一般財源の負担を少なくするために有利な補助事業を活用したいと進めている。これまでの中で示されたプランニングは引き継がれている点をご確認いただきたい。その中で、より良くするために進めていききたい。ドラッグストアについては分離して1年遅れの整備になるが、まずは先に着手する棟を成功させていききたいとドラッグストアに提案したところ承諾いただいた。ドラッグストアは出店する前提で進めなければならないのでスペースも空けておかなければならない。行政としてもスーパーとドラッグストアが一体となっていた方が利便的だと考えていたが、スーパー側より分離してほしいと要望があり、それを尊重しなければならず分離した整備案となっている。また地域公共交通計画にも関連するため、バス会社やハイヤー会社との話し合い、道道の一部拡幅もあるので北海道との協議も必要となる。バス会社との協議の中ではご意見も頂戴しており、さらなる改良も必要となる。スーパーマーケット、図書館、交通ターミナルの棟が早く完成しなければ旧JAの解体やスーパーの移転ができない。旧JAは昭和30年代の建物であり不具合も生じてきており、さらなる不具合が生じることも考えられる。極力早く施設の整備に向かっていききたいので、ご迷惑やご苦勞をお掛けするが精力的に意見交換をいただきながら形にしていききたい。ご協力をお願いしたい。
- 会 長：譲れない部分はどこなのか、お互いの信頼関係やコミュニケーションを図りながらWS等で取り入れながら進めていききたい。